

埼玉古墳群におけるサイン整備の歴史と課題

田邊 えり

はじめに

埼玉古墳群では、昭和42年に『風土記の丘建設構想』に基づいて整備事業が始められて以来、50年以上もの長きにわたって継続して整備が続けられている。長い整備の歴史を物語るものの一つとして、さきたま古墳公園内に設置された様々なサイン(看板)が挙げられる。本稿では、公園内設置サインの現状を整理することによって、サインに表れる整備の歴史を記録するとともに、今後の整備にあたっての課題を明らかにすることを目的とする。なお、本稿は史跡整備の視点からの記録であるため、古墳公園全体ではなく史跡指定地内を中心とした古墳群の整備に関わるエリアを調査の対象としている。調査の内容をすべてまとめた公園内設置サイン一覧を末尾に掲載した(表1)。

1. サイン整備の歴史

1-1. 設置主体(図1)

公園内のサインは、様々な団体によって設置されてきた。サインの設置主体を年代ごとに整理すると、第一に、埼玉古墳群の史跡指定当時の管理団体である埼玉村が挙げられる。埼玉村は昭和29年に行田市と合併し、以後は行田市教育委員会や行田商工会議所等の行田市関係の団体がサイン設置に関わっている。

昭和44年度にさきたま資料館が開館すると、史跡整備に関わるサインの設置は資料館の学芸課が主に担当するようになった。一方、公園の管理は知事部局の都市公園を所掌する部署⁽¹⁾が担当しており、管理に関わるサインは主にこれらの部署によって設置されていた。平成18年度には県立博物館の再編整備によって、さきたま資料館はさきたま史跡の博物館へとリニューアルした。史跡整備担当が新設され、整備に関わるサイン設置の業務を引き継いだ。同時に、公園管理の業務が知事部局から教育局へ移管され、新設された総務・管理担当が管理に関わるサイン設置を担当するようになった。平成21年度から総務・公園管理担当へと名称を変更している。

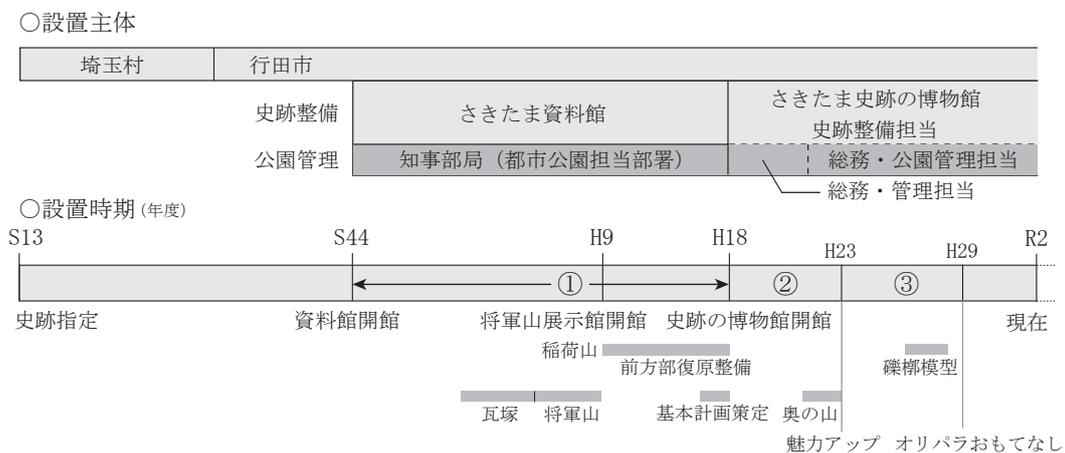


図1 サインの設置主体と設置時期

1-2. 設置時期(図1)

(1)昭和13年：埼玉古墳群の史跡指定

埼玉古墳群の管理団体となった埼玉村は、標柱や注意書き、記念碑等を設置した。

(2)昭和44年度：さきたま資料館の開館

昭和42年から始まった「さきたま風土記の丘整備事業」に伴い、資料館を開館。公園管理や史跡の実質的な管理を県が担当するようになり、古墳公園としての整備や史跡整備が本格的に始まる。

(3)昭和64年～平成3年度：瓦塚古墳の整備事業

(4)平成4年～8年度：將軍山古墳の整備事業

(5)平成9年度：將軍山古墳展示館の開館

(6)平成9年～18年度：稲荷山古墳の整備事業

(7)平成18年度：さきたま史跡の博物館へのリニューアル

公園管理が知事部局から教育局へ移管され、公園内のサイン設置のほとんどを博物館が担当するようになる。

(8)平成17・18年度：史跡埼玉古墳群保存整備基本計画の策定

基本計画に基づいて、新たな解説サインと誘導サインの設置が始まる。

(9)平成21～23年度：奥の山古墳の整備事業

(10)平成23年度：魅力アップ事業⁽²⁾

古墳公園内の順路の明確化と博物館への誘導促進を目的に、古いサインの撤去と新設が行われた。

(11)平成26～28年度：稲荷山古墳礫柵設置事業

(12)平成29年度：オリパラおもてなしミュージアム

古墳の解説サインに、多言語解説が可能になるQRコードを設置。英語、中国語(簡・繁)、韓国語による解説が可能になった。

2. サインの現状

2-1. サインの種類

(1)案内サイン(図3)

公園内のマップは、平成23年度の魅力アップ事業によって一新された(図3-①)。一つだけ令和元年度に内容を貼り替えた案内サインがあり、これが現状では最も新しいマップである(図3-②、表1-13)。特筆すべきものは、さきたま資料館時代に設置されて現存しているマップである(図3-③、表1-3)。稲荷山古墳の前方部があとから書き足されており(図2)、整備の歴史を物語っている。マップとしての役目は終えているが、サイン自体



図2 案内サイン拡大図



図3 案内サインの種類

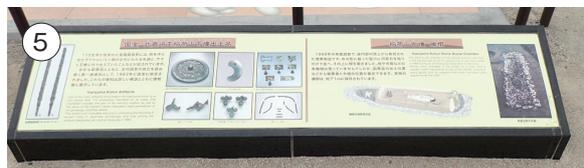


図4 解説サインの種類



図5 誘導サインの種類

がすでに歴史的な価値を有しており、保存を検討する必要がある。行田市全体の観光案内は、行田市関係の団体によって設置されている(図3-④)。

(2) 解説サイン(図4)

各古墳の解説サインは、平成17・18年度に策定された保存整備基本計画に基づき、平成18～23年度までに順次作り替えられた(図4-①)。すべて国庫補助金によって設置されている。鉄砲山古墳と中の山古墳のみ、平成元年度に設置された古いサインのままとなっている(図4-②)。平成8年度に設置された將軍山古墳の解説サインも古いものが残存している(図4-③)。平成23年度の魅力アップ事業では、石田堤と忍城に関する解説サインが新設された(図4-④)。平成28年度には、国庫補助事業である稲荷山古墳礫槨模型設置事業によって、礫槨と粘土槨に関するサインが新設された(図4-⑤)。

(3) 誘導サイン(図5)

公園内に最も多く設置されている誘導サインは、鮮やかな青地に白文字で表記されたものである(図5-①)。平成18年度のさきたま史跡の博物館開館直後に、管理担当によって設置されたものと考えられる。擬木製の誘導サイン(図5-②)や「トリムコース」と書かれたサイン(図5-③)は、さきたま資料館時代に設置されたものである。また、整備基本計画に基づいて、



図6 名称表示・名称碑の種類

平成19年度と23年度に新たなデザインの誘導サインが設置された(図5-④)。いずれも国庫補助金で設置されている。平成23年度の魅力アップ事業では、数種類の誘導サインが新設された(図5-⑤・⑥・⑦)。

(4)名称表示・名称碑(図6)

石造の名称碑は、昭和13年の史跡指定直後に埼玉村によって設置されたものである(図6-①・②、表1-2・9・15)。昭和15年には保存運動の記念碑が設置された(図6-③、表1-1)。これらについては、「埼玉古墳群の保存と整備」(西口2018)に詳しい。昭和26年にも、補助金によって複数の標柱が設置されている(図6-④・⑤、表1-3・6・16)。瓦塚古墳の部位名称碑(図6-⑧)は、平成3年度に瓦塚古墳の復原整事業によって設置された。

博物館の名称表示は、平成23年度に新設されたもの(図6-⑥、表1-7)と、その後に公園管理担当によって設置されたものがある(図6-⑦、表1-8)。



図7 マナー・注意喚起サインの種類



図8 案内サイン分布図

(5) マナー・注意喚起サイン(図7)

マナー・注意喚起サインのほとんどは、知事部局か再編後の管理担当、または公園管理担当によって設置されている。公園内に最も多く設置されている、キャラクターが描かれたサイン(図7-①)は、さきたま史跡の博物館開館直後に設置されたものと考えられる。手書きの標柱(図7-②)は劣化が激しく、少なくともさきたま資料館時代以前に設置されたものと考えられる。「文部省」と書かれた石造の注意書きは、史跡指定当時に埼玉村が設置したもので、鉄砲山古墳と中の山古墳の墳丘に残っている(図7-③)。

2-2. サインの分布

サインの分布図を種類ごとに図8～12に示した。分布図からは第一に、誘導サインとマナー・注意喚起サインが非常に多いことがわかる。案内サインと解説サインは、内容の貼り替え、ま



図9 解説サイン分布図



図10 誘導サイン分布図

たは新設時に古い看板の撤去が行われているものが多い一方、誘導サインとマナー・注意喚起サインは増加の一途をたどっている。景観保全の観点から設置数が過剰であると考えられ、再整備の必要性に迫られている。

第二に、案内サインと解説サイン、名称表示・名称碑は、適した場所に設置されていることがわかる。案内サインは、多くの来園者にとって古墳散策の起点となっている駐車場と博物館



図11 名称表示・名称碑分布図



図12 マナー・注意喚起サイン分布図

に集中しており、解説サインは大型古墳と遺構ごとに公園内にバランスよく分布している。名称表示・名称碑は、史跡整備の歴史を示すものとして残されている碑のほかは、各施設に近接した位置、または公園を南北に分断している県道に面した人目につきやすい場所に設置されている。誘導サインやマナー・注意喚起サインも概ね必要な場所に設置されているようにみえるが、前述した通り設置数が過剰であるため、必要以上に密集している箇所や不要な場所にまで

設置されてしまっている可能性が高い。このため、撤去を伴う再整備の際には、現地を再確認しながら来園者にとって最適な場所を選択する必要がある。

2-3. 多言語化の取り組み

平成18年度以降に設置された各古墳の解説サインは、英語と点字での解説が併記されている(図3-①)。また、平成23年度に設置された案内サインと誘導サインは、施設名の英語表記が書かれている。駐車場に設置された誘導サインは、中国語と韓国語での表記もなされている(図5-④)。

注目すべき取り組みとして、平成29年度の「オリパラおもてなしミュージアム」によって、各古墳の解説サインの多言語化が行われた。既存の解説サインにQRコードを設置し、多言語対応のwebサイトに誘導されるようになってきている(図13・14)。対応言語は、日本語、英語、中国語(繁体・簡体)・韓国語で、テキスト、画像、動画によって解説を閲覧、視聴することができる。



図13 QRコード



図14 多言語解説のwebサイト

3. サイン整備の課題

サインの現状調査により、長年にわたる史跡や公園の整備の中で、様々な設置主体によって、様々な種類、デザインのサインが多数設置されてきた歴史が明らかになった。サイン整備における最大の課題は、撤去の難しさであると考えられる。設置主体が複数あること等から、一度設置したサインを撤去することは確かに容易ではない。さらに、公園管理の面ではサインが少なすぎると問題がある一方、遺構保護や景観保全の面では逆にサインが多すぎると問題が生じるなど、設置目的によって観点も異なる。設置主体や設置年代によってデザインも多種多様になっている。よって、サインの新設時には撤去の難しさを考慮した十分な検討が必要であると同時に、サイン設置の理念や目的、デザイン等を複数の設置主体で共有し、新設時には意思疎通が図れる体制があることが望ましい。

また、時代の変化によって公園の姿や史跡整備の在り方は次々と変化していくため、サインの定期的な見直しが不可欠である。現状では、劣化が激しいサインや古い情報が書かれているサインが放置されてしまっている。撤去が難しい反面、公園の現状や最新の調査成果に合わせ

たサインの再整備や定期的な情報の更新が不可欠であることから、内容の更新が比較的容易なタイプ、例えば枠の中身だけが交換可能なタイプ等のサインを選択して設置することも検討の対象となる。

4. 今後の整備に向けて

サインの劣化や過剰な設置数から、サインの再整備が必要である。再整備にあたって重視すべきと考えられる観点を以下にまとめる。

(1) 来園者の観点：来訪者にとってわかりやすい設置場所やデザインであること。また、来園者や近隣住民の安全が十分確保されていること

(2) 遺構保護・景観保全の観点：設置数は可能な限り少なく、景観を損ねないデザインであること

(3) ユニバーサルデザインの観点：外国人や障害を持つ方々など様々な来園者に配慮したものであること

前述したような、設置主体同士で情報共有ができる体制で、十分な検討を経て現状で最も適したサインの立て替えや新設を行うことが望ましい。また、サインだけでは不足する点や実現不能な点は、サイン以外のツールとの連携によって解消していくことも重要である。近年急速に導入が進んでいる VR・AR 技術をはじめ、パンフレット、館内展示、ガイドツアー等、博物館の様々な活動を総合して整備にあたる姿勢が今後さらに重要となるだろう。

おわりに

本稿は、『史跡埼玉古墳群保存活用計画』の策定にあたって行われたサイン調査の成果を参考にさせていただいた。50年以上にわたる埼玉古墳群での整備の記録とその発信として、本稿が史跡整備に携わる人々や興味を持つ人々の探求や課題解決の一助になれば幸いである。

註

(1) 県庁の組織改変に伴い、部・課・所の名称や担当課所は随時変更されている。

(2) 県利根地域振興センターが中心となり、埼玉古墳群の魅力アップを図るため、様々な事業が展開された。

参考文献

岡本健一ほか 1997 『将軍山古墳 《史跡埼玉古墳群整備事業報告書》—史跡等活用特別事業— 保存・整備工事編』
埼玉県教育委員会

埼玉県立さきたま史跡の博物館編 2007 『史跡埼玉古墳群保存整備基本計画』埼玉県教育委員会

埼玉県立さきたま史跡の博物館編 2019 『史跡埼玉古墳群保存活用計画』埼玉県教育委員会

埼玉県立さきたま資料館学芸課 1998 『瓦塚古墳 《史跡埼玉古墳群保存整備事業報告書》—史跡等活用特別事業—
保存・整備工事編』埼玉県教育委員会

佐藤康二ほか 2014 『史跡埼玉古墳群 奥の山古墳発掘調査・保存整備事業報告書』埼玉県教育委員会

西口正純 2018 「埼玉古墳群の保存と整備」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第11号 pp.99-102

山田琴子 2019 『史跡埼玉古墳群稲荷山古墳礫柳模型設置事業報告書』埼玉県教育委員会

若松良一編 2007 『武蔵埼玉 稲荷山古墳 史跡埼玉古墳群 稲荷山古墳発掘調査・保存整備事業報告書』埼玉県教育委員会

表1 公園内設置サイン一覧

案内サイン

	設置主体	設置年代	内 容	多言語対応	特記事項
1	不明	①	資料館の案内		
2	不明	①	將軍山展示館の入館案内		
3	さきたま資料館	①	園内マップ		図3-③
4	史跡整備担当	H23年度	園内マップ	博物館、展示館名のみ英語表記	魅力アップ事業
5	行田市関係		行田歴史ロマンの町		
6	行田市関係		日本遺産「和装文化の足下を支え続ける足袋蔵のまち 行田」案内		
7	史跡整備担当	H23年度	園内マップ	博物館、展示館名のみ英語表記	魅力アップ事業
8	史跡整備担当	H23年度	掲示板		魅力アップ事業
9	行田市関係		行田市観光案内マップ		
10	行田市関係		行田市観光案内マップ		図3-④
11	行田市関係		ぐるっと埼玉サイクルネットワーク		
12	史跡整備担当	H23年度	園内マップ	博物館、展示館名のみ英語表記	魅力アップ事業、図3-①
13	資料展示担当	令和元年度設置は①	園内マップ		貼り替えは運営費、図3-②
14	史跡整備担当	H23年度	掲示板		魅力アップ事業
15	史跡整備担当	H23年度	園内マップ・散策ルート	博物館、展示館名のみ英語表記	魅力アップ事業
16	史跡整備担当	H23年度	園内マップ	博物館、展示館名のみ英語表記	魅力アップ事業
17	史跡整備担当	H23年度	園内マップ	博物館、展示館名のみ英語表記	魅力アップ事業

解説サイン

	設置主体	設置年代	内 容	多言語対応	特記事項
1	史跡整備担当	H18年度	稲荷山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備基本計画に基づく
2	史跡整備担当	H18年度	稲荷山古墳の埋葬施設の解説		国庫補助
3	史跡整備担当	H28年度	稲荷山古墳の礫礫、出土品の解説	英語表記	国庫補助、礫礫模型設置事業、図4-⑤
4	史跡整備担当	H28年度	稲荷山古墳 粘土礫の解説	英語表記	国庫補助、礫礫模型設置事業
5	史跡整備担当	H18年度	稲荷山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
6	さきたま資料館	H8年度	將軍山古墳解説		国庫補助、図4-③
7	史跡整備担当	H20年度	將軍山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく、図4-①
8	史跡整備担当	H18年度	丸墓山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
9	史跡整備担当	H23年度	石田三成の忍城水攻めについての解説		魅力アップ事業、図4-④
10	史跡整備担当	H18年度	丸墓山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備基本計画に基づく
11	史跡整備担当	H23年度	石田堤の解説		魅力アップ事業
12	史跡整備担当	H19年度	二子山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
13	史跡整備担当	H19年度	二子山古墳解説	英語解説・点字表記	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
14	史跡整備担当	H20年度	愛宕山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
15	史跡整備担当	H20年度	瓦塚古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
16	さきたま資料館	①	移築民家の解説		
17	史跡整備担当	H20年度	瓦塚古墳解説	英語解説・点字表記	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
18	さきたま資料館	H2年	鉄砲山古墳解説	QRコード	図4-②
19	史跡整備担当	H23年度	奥の山古墳解説	英語解説・点字表記・QRコード	国庫補助、保存整備計画基本に基づく
20	さきたま資料館	H2年	中の山古墳解説	QRコード	
21	行田市関係		浅間塚古墳解説	英語解説・点字表記	

誘導サイン

	設置主体	設置年代	内 容	多言語対応	特記事項
	総務・管理担当	②	青地の誘導サイン		図5-①
	知事部局	①	擬木製の誘導サイン		図5-②
	知事部局	①	トリムコース		図5-③
	知事部局・管理担当	不明	お手洗い、トイレ		
1	行田市関係		サイクリングルート		
2	史跡整備担当	H23年度	白山古墳、古代蓮の里	英語表記	魅力アップ事業、図5-⑥
3	不明	①	稲荷山古墳		
4	史跡整備担当	H23年度	将軍山古墳展示館	英語表記	魅力アップ事業、図5-⑦
5	不明	①	将軍山古墳展示館への道筋		
6	不明	①	将軍山古墳展示館、駐車場		
7	史跡整備担当	H19年度	稲荷山古墳、丸墓山古墳、二子山古墳		国庫補助、保存整備計画基本に基づく、図5-④
8	史跡整備担当	H23年度	埼玉県立さきたま史跡の博物館、稲荷山古墳、丸墓山古墳、将軍山展示館	英語表記、一部中国語、韓国語表記	魅力アップ事業、図5-⑤
9	史跡整備担当	H23年度	埼玉県立さきたま史跡の博物館、稲荷山古墳、丸墓山古墳、将軍山展示館	英語表記、一部中国語、韓国語表記	魅力アップ事業
10	行田市関係		「のぼうの城」の歴史と利根の自然を満喫するルート		
11	史跡整備担当	H23年度	さきたま史跡の博物館、瓦塚古墳、愛宕山古墳、丸墓山古墳、稲荷山古墳、二子山古墳、将軍山古墳、鉄砲山古墳、中の山古墳		国庫補助、保存整備基本計画に基づく

名称表示・名称碑

	設置主体	設置年代	内 容	多言語対応	特記事項
1	埼玉村	S15年	保存運動の記念碑		図6-③
2	埼玉村	S13年	史跡埼玉村古墳群		図6-①
3	埼玉村	S26年	昭和二十六年三月三十一日		図6-④
4	さきたま資料館	①	梅塚古墳		
5	さきたま資料館	①	円墳址		
6	埼玉村	S26年	史跡埼玉村古墳群		図6-⑤
7	史跡整備担当	H23年度	埼玉県立さきたま史跡の博物館		魅力アップ事業、図6-⑥、裏面にマップ付き
8	総務・公園管理担当	③	埼玉県立さきたま史跡の博物館		図6-⑦
9	埼玉村	S14年	史跡 将軍塚 稲荷山 ポッチ山 入り口		図6-②
10	さきたま資料館	①	旧遠藤家住宅		
11	さきたま資料館	①	移築民家		
12	さきたま資料館	H3年度	瓦塚古墳の遺構名称表示(造出し、内堀、中堤、外堀、ブリッジ)		国庫補助、図6-⑧
13	さきたま資料館	H3年度	瓦塚古墳の遺構名称表示(内堀、中堤、外堀)		国庫補助
14	さきたま資料館	H3年度	瓦塚古墳の遺構名称表示(内堀、中堤、外堀)		国庫補助
15	埼玉村	S14年	史跡 鉄砲山 中の山 奥の山		
16	埼玉村	S26年	鉄砲山古墳、史跡埼玉村古墳群		
17	史跡整備担当	H23年度	特別史跡埼玉古墳群		国庫補助、移動は公園管理担当

マナー・注意喚起サイン

	設置主体	設置年代	内 容	多言語対応	特記事項
	埼玉村	S14年	古墳保護の呼びかけ		図7-③
	不明	①	古墳保護の呼びかけ		図7-②
	総務・管理担当	②	古墳保護の呼びかけ、ペットに関する注意、水遊びや釣りの禁止		図7-①